

認知症を温かく受け止める 地域づくりが大切です



株式会社 ref.
デイサービス かきの木
代表取締役兼管理者
ありむら ひろゆき
有村 洋幸さん

大崎町のキャラバンメイトとして、小・中学校で講座を実施。すこやか交流会では、認知症のおじいちゃん役を熟演。

私は大崎町のキャラバンメイトとして活動して4年になります。活動を始めたころは、やはり世間一般的に認知症の理解が進んでいませんでしたが、最近では、小・中学生への講座の実施やサロン、すこやか交流会をとおして、少しずつですが認知症への理解が深まってきたと感じています。

認知症は本人や家族だけのことではなく、地域で取り組む必要があると思います。地域で温かく認知症を受け止めることができれば、本人とその家族も安心します。

今後も、そういった地域を増やすために、キャラバンメイトの活動をとおして、認知症への理解を深めていきたいと思っています。

認知症かな？と思ったら

**大崎町認知症初期集中支援
チームにご相談ください！**

地域包括支援センター

☎471-7828

回生園在宅介護支援センター

☎477-2525

保健福祉課介護福祉係

☎476-1111



▲大崎小での講座の様子

認知症の人や家族が住み慣れた地域で安心して生活していくためには、周囲の正しい理解が必要です。
町では、『認知症サポーター養成講座』を平成28年から小学生と中学生を含め実施しています。認知症の原因や症状、接し方やサポーターとしてできることなど、認知症についての正しい知識を学ぶ機会を設けています。

地域で支える認知症

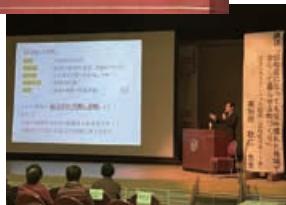
2月24日(日)、町中央公民館大ホールで『第12回すこやか交流会』を開催しました。今年度は『認知症』をテーマに、寸劇や介護体験発表、講演などをおこないました。
寸劇をおこなったのは、『劇団ぼっけもん』の皆さん。平成8年から活動していて、今回は認知症をテーマに、認知

すこやか交流会で 認知症への理解を深める



▲野方小での講座の様子

症の方が住み慣れた地域で暮らしていただけるように、地域の関わり方や家族の在り方を寸劇で表現しました。
また今回は初となる認知症サポーター養成講座を受講した、小学生と中学生も初めて、ナレーションや出演者として参加しました。



認知症サポーター医が講演
医療の分野でも支援を
すこやか交流会では、本町の認知症サポーター医である、はるびゅうクリニック院長の春別府先生が、講演もおこなっていました。
先生は、『認知症に早く気付いて、認知症であることを隠さず、地域で見守ることが大切です。』と講演され、参加者の皆さんは熱心にメモをとるなど、真剣に聞いていました。

オレンジカフェにきませんか？

オレンジカフェとは……

『オレンジ』は、認知症のシンボルカラーです。認知症の人やその家族はもちろん、認知症に関心のある方ならどなたでも参加できます。お茶を飲みながら、ゆっくりとお互いに情報交換したり、認知症の勉強などをしませんか。

大崎町では、現在『出前カフェ』をおこなっており、いくつかのサロンやころぼん体操の会場で、大型紙芝居などもしています。

ご希望がありましたら、役場保健福祉課介護福祉係までご連絡ください

☎099-476-1111 (142・143)

